

会報

[広報誌のインデックスへ戻る](#)

第2号

1993年12月1日

発行 埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会
編集 東京国際大学図書館
聖学院大学総合図書館
明の星女子短期大学図書館



居場所としての図書館

城西大学副学長
水田 宗子

私が中学・高校生だった頃、現在は迎賓館となっている旧赤坂離宮は、国会図書館であった。初めてそこに行ったのは、中学三年の時、国語担当の先生から、行ってみなさいと言われてであった。何を調べに行ったのかは、もうよく覚えていないのだが、その頃私は、ドストエフスキーを読み始めていて、その先生と勝ち目のない<論争>をしていたから、ロシア社会について何かを読みに行ったのだと思う。その先生は、島崎藤村とお見合いをしたという噂のある、女高師出身の秀才で、文学については恐ろしくよく知っていて、決して自分の意見は曲げないのだった。

何を調べに行ったのかは覚えていなくても、初めて図書館に入った時の感動は、今でもはっきりと心に残っている。そこは今まで私が入ったこともない空間であった。建物の豪華さや内部の装飾の見事さはもちろんのことだが、何よりも、その見たこともない高い天井や大理石の階段で作りだされた人工的な広い空間に浸透した、深い静けさに驚いたのである。

それから高等学校を卒業するまで、私はよく国会図書館に通った。はじめは先生に対抗できる知識を得るためだったのだろうが、そのうちにただそこに身を置きたいために通うようになった。そこに入れば、深い静けさの中で一人になることができたのである。そこで私は、特別な本を読むというよりは、日記をつけたり、試験勉強などをした。

私の学校は四谷駅の麴町側にあり、イグナチオ教会を横手に見ながら線路の向こう側へ橋を渡り、そのまま左に折れると、真正面に見えてくるベルサイユ宮殿によく似た優雅で威厳のある、国会図書館の建物へ向かって私は歩いて行った。帰宅の途中に寄り道をするには許可が必要だったので、授業が終わるとまっすぐ職員室に行き、許可証をもらってそのまま校門を出る。一時間半しか許可が下りないので、少しでも早く着きたかった。

今、迎賓館の側を通ると、昔のままに建物は建っているが、鉄の門が閉まり、そこに向かう並木道には人影もなく、その人を寄せつけない木立の中の空間に女学生だった私が自由に出入りしていたとは信じられない気がする。門に入り、建物の扉を押して中へと入って行く、制服を着た自分を思い出そうとすることは、夢の中の風景や、映画の中の光景を思い浮かべようとするのに似た頼りなさが伴う。建物の内部で本を読んでいる自分の場合は、絵画の中の遠景のように、近づけばぼやけてしまいそうな気さえる。だが、そこで過ごした時間の中で経験した緊張や興奮は、いつでも一瞬にして蘇ってくるように思える。それはやはり私の心に貼りついた、自分の原風景のひとつなのである。

使いよい図書館と使い勝手の悪い図書館はあるが、なんと言っても、使い慣れた図書館こそが一番便利な図書館である。だが、そこが自分にとって居心地の良い空間となるか否かはまた別である。私が今までに最もよく使った図書館は、イエール大学、南カリフォルニア大学、そしてカリフォルニア大学リバーサイド校とロスアンジェルス校の図書館だが、論文や本を書くために大変役に立った南カリフォルニア大学やカリフォルニア大学の図書館よりも、長時間入り浸り、そこで日記や詩や手紙を書き、さまざまのことを考え、夢に耽った、イエールの図書館こそ一番思い出に残る、若い時の私の居場所であった。

私はそこで、最初の本を書いたことは書いたのだが、それは今とは違って、なんとも回りくどいプロセスを経て、長い時間がかかって出来上がったものだった。つまり、考え、分析をし、リサーチをし、実証し、まとめ、書く、といったプロセスに加えて、思い出や夢に耽ったり、悲しんだり、後悔したり、手紙を書いたり、関係のない本を読んだりといった、心のあらゆる部分を使い果たした結果、出来上がった本だったのである。そのまったく孤独な、自分と向き合った時間を過ごしたイエールの図書館の、スタック三階の窓際のストールこそ、私だけの空間、プライベートな私の居場所だった。

その頃は、コピー機がなかったから、B6カードに収めるほどのノートを取ったの

だが、ノートや読んだ資料や出来上がった本などをたとえ忘れてしまっても、あの時の(自分)は、その(居た場所)の感覚と共に、いつでも強い存在感を伴って蘇ってくる。

心と場所が一体になる孤独な空間は、年をとるにつれて希薄になっていき、機能的な便利な場所が生活の大部分を占めるようになっていく。図書館も、コピー機やファックスなどが備えつけられて、長時間そこで心の探索に過ごす場所というよりは、必要なりサーチを手早く済ませる場所となった。最近使う図書館は、イエールの、暗いゴシック様式の図書館とちがって、どれも明るい近代的な建物ばかりである。薄暗い図書館の一隅で、ぼんやりと過ごす時がたっぷりある晩年よ、早く来たれと思っている。

活動報告 '93

第6回総会を終えての寸感

5月27日 城西大学にて開催

城西大学水田記念図書館事務長
戸田 猛

もう六回目の総会を迎えるのかという感慨と、まだまだ六回しかという思いが交錯する中で総会は終了した。

まず総会は城西大学の石川館長、引き続き埼玉大学の石原館長と挨拶をいただいた。どちらも心底には21世紀を見据えた図書館及び図書館員の変革を念頭に置きながら、図書館は平成3年7月1日施行の大学設置基準の改正の主旨にあるように、図書等の資料は図書館が中心となって系統的に収集し、情報処理及び提供のシステムを整備して、学内は勿論のこと他大学、各種機関との交流、協力を努めることを述べ、それ故に図書館員は常日頃より専門性を高める努力をする認識を持ち続けるべきであるということ意識した上での、挨拶であったろうと思う。

総会での議事は、毎回の通り進行し議事はすべて承認された。どこの総会・大会でも決まり切った議題を設定しているから、ややもすると普段会えない方々と会える機会を作るといった感じはやむをえない。

その意味からすると、埼玉県大学図協の場合は、それほど人数が多くないので懇親会をもっと工夫すれば、図書館現場に起こる諸問題、大学以外の色々なお話などもできて結構、とりすました会議よりも実りの多いものになるのではないかと考えたりするのである。

これは私の気の小ささからくるクセであるが、どんなささやかな会でも「準備メモ」をつくることにしている。すこしでも相手に迷惑をかけることを極力無くそうとする当たり前の体験からである。

今回の総会は、本学館員が日常業務多忙や、一・二期図書館改修工事後の準備やら、平成7年度から導入するIBM総合図書館情報システム(DOBIS/E)の準備、研修など重なって、とても総会の手伝いを全面的にしてくれとは言えない事情があった。だが、参加者のことを思うと当日は万全を期したいという思いで胸一杯になる。しかし、それが又楽しみになるのである。

そして、すでに第7回総会に向けて、協議会活動は始動しているのである。

活動暦

'92年11月～'93年10月

1992年

- 11月5日 アンケート調査実施(2件)
「共通閲覧証の利用状況」
「大学紀要の取扱」
- 12月1日 「会報」創刊号発行
- 12月18日 第4回実務担当者研修会 於:東京国際大学第2キャンパス
出席:43名
テーマ:紀要の収集について
司会:城西大学武政恒雄氏
議長:東京国際大学南波佐間宏氏
活動報告:城西大学戸田猛氏
東京国際大学田口稔氏

講演：埼玉大学小野崎好夫氏

1993年

3月12日 **第26回幹事会** 於：東洋大学朝霞校舎

5月27日 **第6回総会** 於：城西大学

出席：40名

司会：城西大学武政恒雄氏

議長：聖学院大学上沢田浩氏

終了後施設見学：水田記念図書館 清光会館（情報科学研究センター等）

7月23日 **第27回幹事会** 於：東京国際大学第2キャンパス

10月15日 **第28回幹事会** 於：早稲田大学所沢キャンパス

10月20日 **アンケート調査実施**（対象：短期大学図書館）

《今年度新規加盟館》

- 東京理科大学図書館久喜分館
- 武蔵丘短期大学図書館

《今年度新規幹事館》

- 早稲田大学所沢図書館

（東京国際大学 田口 稔）



埼玉県の短期大学図書館の現状

聖学院大学総合図書館司書課長
上沢田 浩

埼玉県に設置された短期大学図書館は24館（大学との共用館6館を含む）である。

これらを設立年代でみると、埼玉大学経済短期大学が昭和29年に開校し、20数年の歴史があるが、平成6年度末には閉学となる。昭和30年代の開学校はなく、昭和40年代5校、昭和50年代8校、昭和60年代5校、平成になってからの開学は5校である。

「日本の図書館1992年版」で学生数、職員数、蔵書数、雑誌数、貸出冊数、文献複写、資料費を短大図書館、大学図書館との共用館、全国短大図書館平均、埼玉県の大学図書館18館の平均は、別表1の通りである。尚、淑徳短大みずほ台図書館は、板橋校舎との合計集計のため、平均の集計から除いた。

秋草短大、武蔵丘短大、東邦音大は未回答であった。埼玉医科大学短大と埼玉医科大学は各々個別報告であったので、共用館とはせずに、短大、大学で集計した。

集計結果からみると、県内短期大学の平均は、全国短大平均に比べ、職員数（専任・臨時）では勝るが、他の項目では及ばない。この理由を推測すると学生数が全国平均の70%程度のため、見方を変え学生一人当たりの平均を見ると別表2の様になり、資料費が微差で劣るが、他の項目では上廻っている。

文献複写についてみると、短大と大学では対比がはっきりしている。短大では依頼が受付を大きく上廻っているが、絶対数としては多くはない。

筆者の経験から云うと、本学が短大だけの時は、複写依頼は自校出版物（紀要、学会誌）に限られていたが、大学併設と共に学術雑誌総合目録に登録した所、他の所蔵雑誌の依頼が増した。

図書の相互貸借は数字としては掲載されていたが、絶対数としても少なく、本集計では除外した。

県内の大学、短期大学の学科構成を「平成4年度埼玉県大学概要」により集計し、別表3とした。

私見であるが、埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会設立の主旨の一つは、相互協力体制の確立であり、これらが活発に機能するためには、各館の所蔵資料の情報をどのようにして知らせるかにかかっている。各図書館の負担は大きくなるが、学総目への短大の参加と、NACSIS-CATへの登録が必要となるであろう。

別表1. 短大・大学との共用館集計

	職員数			蔵書冊数 (千冊)	雑誌		貸出冊数 (千冊)	文献複写		資料費 (千円)
	学生数	専任	臨時		和	洋		依頼	受付	
県立衛生	693	4		64	125	43	11.4	113		5,117
明の星	283	2		37	40	30	3.7		2	3,901
十文字	2,506	7		91	181	44	10.0	1	2	10,369
上野学園	661	2	1	44	116	39	6.7			5,890
秋草										
尚美	1,638	4		36	47	20	10.3			—
武蔵野	497	2		38	619	35	2.6			6,594
埼玉純真	797	2		25	73	28	3.9		1	5,313
国際学院	817	3		21	81	13	0.7			2,066
共栄学園	786	2	1	33	134	44	4.1	2	2	—
浦和	814	2		23	68	40	1.7	1		5,000
川口	965	2		19	77	17	3.0	4		5,987
文理情報	536	0	2	13	75	20	0.5			3,443
埼玉	901	2	1	23	63	28	—	22		5,173
埼玉医科	547	2		15	161	31	8.7			4,096
埼玉女子	840	2		22	54	41	4.3		1	10,587
山村女子	426	1	1	17	34	13	0.5			3,878
武蔵丘										
淑徳*	3,055	7		108	96	30	18.5	42		27,435
平均	857		2.8	32.6	121.8	30.4	4.8			5,555
全国短大平均	1,231		2.4	43.4	—	—	5.6			9,476
埼玉大	7,997	14	16	590	3,557	1,952	46.2	2,291	847	85,284
城西大	9,270	10	8	367	1,432	633	25.9	1,515	1,062	41,855
聖学院大	2,113	4	3	121	355	134	13.0	17	10	27,283
文京女子大	1,090	2	2	34	86	54	[1.6]	9	0	1,936
立正大	6,222	13	1	213	926	105	11.7	3	20	26,226
平均	5,338	8.6	6	265	1,271	576	19.7	767	388	36,517
埼玉県大学平均	3,534	9.2	4.1	152	784	424	21.2	351	238	41,098

別表2. 学生1人あたり平均

	県内短大	全国短大	大学との共用	県内大学	全国大学
学生数/職員数	304.6	415	365.6	266.2	234
蔵書/学生数	38.0	34.7	49.6	43.0	109.4
貸出冊数/学生数(冊)	5.3	3.7	3.7	6.0	8.3
資料費/学生数(千円)	6.9	7.0	6.8	11.2	19.2

別表3. 埼玉県大学・短期大学学科構成

	短大	大学
文学・語学	16	8
教育・保育	8	3
医学・看護・健康・薬学	6	4
商学・経済・経営	7	14
家政・食物	4	1
音楽	4	1

文化	2	2
教養	2	
情報	2	
社会福祉	1	
工学系		29
理学		6
人間関係		5
国際		3
法学		2
美学・美術		1
教養課程		5

短大図書館対象のアンケート実施にあたり

明の星女子短期大学図書館司書
遠藤 恵子

幹事館の役をいただいて、2年目。当館の司書2人の体制では幹事会への出席も毎回とはいかず、電話、郵便、FAXをフルに利用、そして何よりも他の幹事館の皆さんに助けをいただいております。これまでの経験から、特に短大図書館の皆さんにお伝えしたいことがあります。多くの短大図書館が抱えている資料不足や人員不足の問題を解決するためにも、協議会に負うものは大きいのですが、協議会に対して遠慮がちに対応なさっていませんか。幹事会では、些細なことに対しても短大図書館としての意見が求められ、検討されています。また、短大図書館に寄せる期待も大きいのです。

幹事会に参加しながら、短大図書館を代表するほど他の館の状況を把握していないことが不安になってきました。そこで短大図書館を対象とするアンケート調査を提案、このたび加盟する短大図書館の協力をいただき、実施することができました。

アンケートでは、これまでの協議会の活動に対する短大図書館側からの評価、また今後、協議会に期待することを調査しました。追ってお知らせする報告が加盟館相互の理解を更に深め、今後の協議会の活動に役立つようにと考えております。そして、短大図書館として協議会で果たせる役割、可能性を積極的に探る機会となることを期待しております。

《エッセイ》

学生主体の図書館づくり

東邦音楽大学図書館主任
伊藤 恵子

私が、東京・文京区にある東邦音楽短期大学から埼玉県川越市の東邦音楽大学に移ったのは、八年前のことである。都会とは異なり、田園に囲まれた静かな恵まれた環境の中で、大学生達は確かにのびのびと学んでいたが、情報も乏しく刺激も受けないその瞳に、光を感じることはなかった。

まず、学生達一人一人に声をかけることから始めた。私の大学での初仕事である。

「こんにちは。」

初めはとまどっていた学生達も、日常的に声をかけていれば、その内にそれが当たり前になり、自然な形となっていく。次に、業者の協力を得て新刊図書を逸早く展示した。東京まで行かなければ手に出来ない音楽書や楽譜が、自分の目の前に並んでいる事で、彼らの目は少しずつ輝いてきた。また、意見や希望などは、こちらも積極的に取り入れていった。その夏休みには、学生主体の図書館づくりをスローガンにアルバイトを募集。集まらないのでは、という予想に反して、結果は意欲的な学生がふるって応募してくれた。

規模は小さくても、内容のある図書館を目ざしたかった。教員と学生が、どっと押し寄せてくる研究の場をつくりたかった。八年たった今、学園の協力とご指導いただいた多数の教授陣により、図書館はめざましく発展したと思う。

学生達とのコミュニケーションから始まった図書館づくり。今では学生達にとり囲まれ、身体がいくつあっても足りないほどである。今日も、にぎわう図書館の中で、ふっと幸せな風を肌を感じる私である。

加盟館紹介(2)

当会には、現在、大学24館、短大15館(大学との共用除く)が加盟。『自館紹介』方式で各館の様子を披露いただいています。シリーズ扱いですが、順不同はご容赦ください。

跡見学園女子大学図書館

図書課長
豊嶋 美紀

跡見学園女子大学図書館は、学祖跡見花蹊先生生誕150年記念事業の一環として、平成2年12月に着工し、2年有余の歳月を費やし、平成4年2月に竣工した。

新図書館は、キャンパスのほぼ中央に位置した地上3階建ての独立館である。座席数523席を有し、視聴覚ホールを含む各種の施設を備えている。

開館以来入館者が旧館時のほぼ2倍に増加したが、中でも最もよく利用されているのがAVコーナーである。視聴覚の各種メディアに対応できるブースが設置されているが、ソフト面の充実が今後の課題である。

本館の蔵書は現在約18万冊をこえるが、その構成は学科の内容を反映し、国文関係、美学関係、英文学関係、民族学関係の資料を多く所蔵している。また、約2000種の雑誌も同じ傾向を示す。特にこれらの関係のバックナンバー収集には重点をおいている。他に、昨年度からは特殊コレクションとして、新たに画家の書簡の収集を始めた。これらの資料は全面開架を採用しているため一部を除いてすべて開架書架に配架されている。今後、飛躍的に増加する資料を、スタッフのセルフ・リーディングのみで維持していけるか危惧するところである。

来年の4月には、閲覧部門を皮切りに漸次機械化の導入を予定しているが、これからも利用者の新しいニーズに充分応えていくために、10名の館員全員がフル回転の毎日である。

日本工業大学図書館

主任
松本 勇一郎

本学は『工業高校生のための大学』を建学の基本理念として1967年、南埼玉郡宮代町の地に創立されました。したがって、工業高校の出身者が約95%を占めています。電気電子工学科、機械工学科、建築学科、システム工学科の1学部4学科の構成で、それぞれに大学院を設置しています。学生数は約3900名、教職員数は約300名です。

図書館はキャンパスのほぼ中央に位置しており、学習、研究のためばかりでなく、学生の寛ぎの場としての利用も多いようです。

職員数は専任職員7名、非常勤職員5名。

蔵書数16万冊、年刊受入冊数7千冊。雑誌所蔵タイトル数2,100、受入タイトル数950。

視聴覚資料500点、コレクションとして産業考古学関係の資料の収集に努めています。

年間開館日数267日、開館時間9時～20時30分。学生一人当りの年間貸出冊数5.5冊。

図書館システムはCALISを採用しており、公開端末を4台設け、カード目録はありません。学内LANIによって研究室のパソコンなどから図書館の蔵書データベースの検索をすることができます。

オンライン情報検索サービスとしてJOIS、DIALOGをはじめ5つのデータベースの代行検索サービスをしています。

文献複写の学外機関への依頼件数が、受け付けのほぼ4倍に及び、小規模図書館の常とはいえ加盟各館へもご負担をお掛けしていることとおもいます。

まだまだ至らない図書館ですが、資料の充実、サービスの拡大に今後とも努めてまいりたいと念じております。

埼玉県立衛生短期大学附属図書館

図書館長
吉田 雋

わたくし達の短大は看護・衛生技術・歯科衛生・保育の学科のほかにも地域看護・助産の2専攻科があります。幅広い領域があることが単科の短大よりいろいろな利点ともなっていますが、図書館から見ると、図書および雑誌の蔵書構成のうえで重心の置き所に迷い、散漫になる難点があります。

館長としての勉強中、とくに惹きつけられたのは、Matheson Reportを基に発展してきたアメリカの統合型学術情報マネージメント・システムと、日本では“本の置き場から情報センターへ”という題名のついた企業専門図書館館員の方達の論説でした。

今、わたくし達の図書館はヘルスサイエンス系図書館であるという目標をおいて、研究者には新しい情報の探索と入手の迅速化を、学生には基礎的知識を得るための蔵書構築と生涯自己継続教育のための情報の探索と入手方法の教育を目的として、前進を始めたところです。

ヘルスサイエンス情報入手のためには、外国雑誌センターを始め、医学図書館への資料依頼を欠かせませんが、自助努力も必要です。1992年7月から、県内公立医療・教育機関の図書館・図書室連絡会議を発足させ、例会と資料目録の作成、相互貸借などを始め、軌道に乗りつつあるところです。

図書館は、建物より、機器より、蔵書より、人であると思っています。予算の制約は厳しく、雑誌の製本も滞りがちな状況下ですが、努力を続けていくつもりです。

淑徳短期大学図書館(みずほ台キャンパス)

司書
高野 洋弥

東武東上線みずほ台駅からスクールバスに乗ること7～8分、ヨーロッパの街角を思わせる建物が雑木林の間から見えてきます。昭和62年の新学科開学にともない建設された校舎の一階、南東の角に図書館は位置しています。施設面積458平方メートル、閲覧座席112席、所蔵資料約4万冊(一部閉架式)、職員数4名(うち司書2名、館長は兼任)というこじんまりとした図書館です。

蔵書データはすべてオフコンに入力されており、利用者には検索用端末を開放しています。検索の方法や結果について不明な点を気軽に質問できるようにと、カウンターの近くに設置しました。また、利用者の求める情報を自館のみでは提供しきれないハンディを補うために学術情報センターをはじめとする各種外部データベースと接続しています。

先生方の御協力を得て、学生の学習に役立つよう授業で使用されるテキストのほか必読書や参考書等を集めたコーナーを設けています。

図書館入口横には少し軽い内容の雑誌をおいた独立した部屋があります。小さな部屋ですが、図書館閲覧室とはひと味違い、休み時間には雑誌をみながら談笑する学生であふれています。

歴史の浅い図書館のため様々な面で近隣の大学・短期大学図書館にお世話になっております。館員一同努力を重ねてゆきますので、今後ともご支援をお願いしたいと思います。

シリーズ随想

幹事館会議余聞

城西大学水田記念図書館事務長
戸田 猛

この協議会の発足より、埼玉大学図書館は代表幹事館として、幹事会をまとめ、会活動実施に対しても、ある程度積極的に取り組んできた。それを城西大学水田記念図書館は引き継いで、なお一層の前進をさせ、広げたいといったテーマがあった。そうかといって怒り肩になってやろうなんてことは持ち合わせていない。すこぶる平常心である。

39館も加盟していただいたからには、そのチームワーク環境を広げ、それぞれ加盟館の個性、特色等を学びたい、知りたいと願うことは各加盟館の心情であろう。

割とざっくばらんに幹事会をしてきたという思い込みがあるものだから、明の星女子短期大学の遠藤さんが、“幹事館にならなかったら、この良い雰囲気は味わうことはなかったわ！”と社交辞令など言ってくると、我々世代は大変うれしくなってますます調子に乗ってくる。

人間同志が集まる時、肩書や体面など取り払ってケンケンごうごうやれば、互いの欠点が出て、個人的には人間的勉強ができ結構楽しいと思うが、一方では本音が出過ぎてしまって、もうすこし理想や夢の話題があってもよいのではない

かと思うことも又事実である。


加盟館の皆さん、幹事館になって大いに議論をし、埼玉県ローカル色を生かした図書館ネットワークづくりを是非してもらいたいと願わずにはられない。



加盟館名簿 ……省略



インフォメーション

- 過日のアンケート調査(対象:短期大学図書館)にご協力ありがとうございました。
 - 近年、大学、短大図書館の公開、市民開放などが話題になりますが、加盟館各館ではいかがでしょうか。
 - 加盟館ないしは当会などに関連するニュース・情報、また、当会への意見・提案等がございましたら、ぜひ、最寄の幹事館までお知らせください。
- 

編集後記

『会報』第2号をお届けします。今年も、学者、詩人、大学経営者等の多くの顔をもつ水田先生はじめ加盟館の皆様方から寄稿いただき、刊行に至りました。ご協力に深謝申し上げます。

担当者一同、役目を終え、ほっと一息。さなか、大学図書館の有り様、不変であるべきは何、何が変わるべきこと、と思ひめぐらすことも。

なにぶんにも、年1回、8ページ、当会の1年の情報を提供するには充分と言えないかも知れませんが、ご一読いただければ幸甚です。

今後とも、ご助言、ご協力の程、よろしくお願い致します。

(東京国際大学 田口 稔)

[広報誌のインデックスへ戻る](#)



Last Update : 2000.09.20
webmaster@sala.gr.jp